

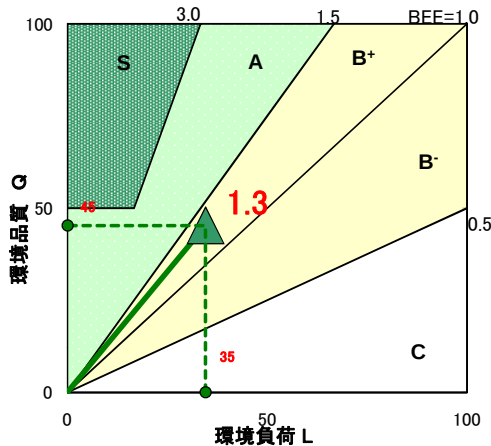
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	(仮称)紺屋町ビル新築工事	階数	地上6F
建設地	熊本市紺屋町1丁目7番、8番、9番、	構造	RC造
用途地域	市街化区域・準防火地域	平均居住人員	411 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年11月 予定	評価の実施日	2011年11月21日
敷地面積	1,962 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	1,101 m ²	確認日	2011年12月2日
延床面積	6,077 m ²	確認者	伊東 正太郎



1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.3

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

80%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

81

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

90.6

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

65.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

85.5

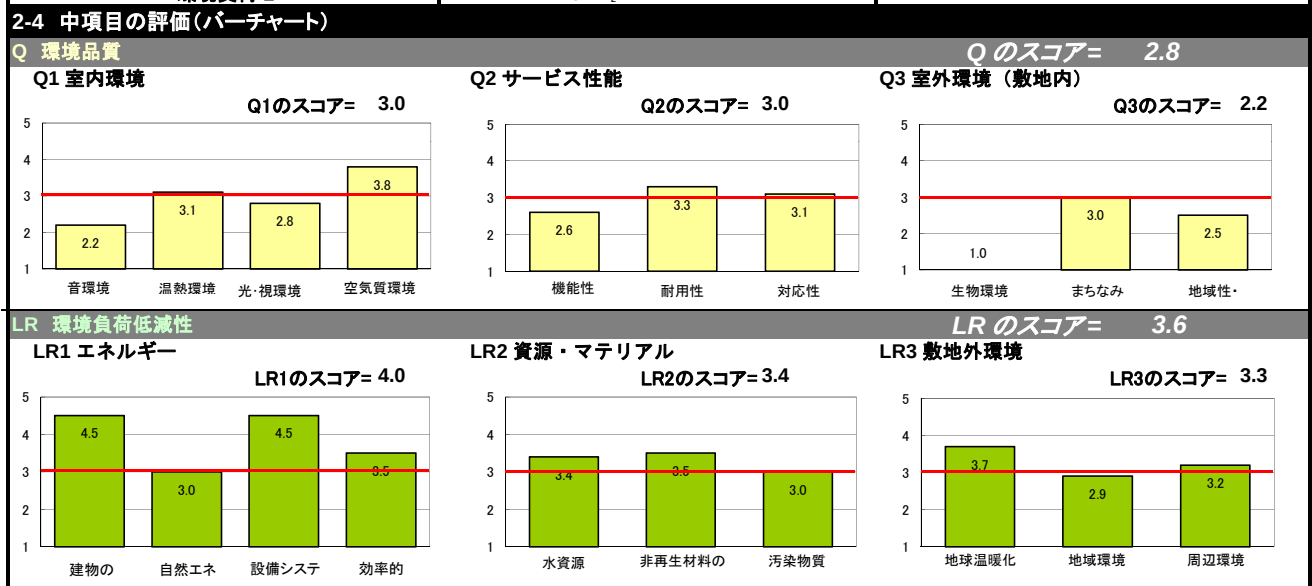
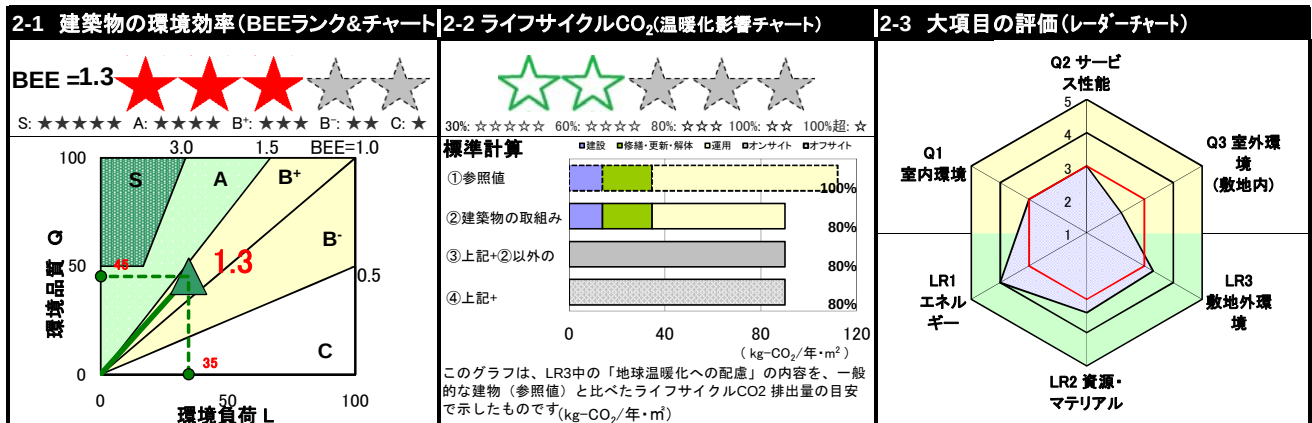
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)紺屋町ビル新築工事	階数	地上6F
建設地	熊本市紺屋町1丁目7番、8番、9番、	構造	RC造
用途地域	市街化区域・準防火地域	平均居住人員	411 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年11月 予定	評価の実施日	2011年11月21日
敷地面積	1,962 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	1,101 m ²	確認日	2011年12月2日
延床面積	6,077 m ²	確認者	伊東 正太郎



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)紺屋町ビル新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境			0.40			3.0
1 音環境		2.2	0.15		-	2.2
1.1 騒音		3.0	0.40		-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00		-	
1.2 遮音		1.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音		3.0	0.20		-	
2 温熱環境		3.1	0.35		-	3.1
2.1 室温制御		4.0	0.50		-	
1 室温		3.0	0.38		-	
2 熱環境・室温制御性能			-		-	
3 外皮性能	熱線吸収ガラスを採用	4.0	0.25		-	
4 ゾーン別制御性	ビル用マルチエアコン	5.0	0.38		-	
5 断熱・断熱性能			-		-	
6 断熱性能			-		-	
7 断熱・気密に対する配慮			-		-	
8 断熱・気密			-		-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-	
2.3 空調方式		3.0	0.30		-	
3 光・視環境		2.8	0.25		-	2.8
3.1 昼光利用		2.4	0.30		-	
1 昼光率		2.0	0.60		-	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-	
1 開口部遮光対策			-		-	
2 昼光制御		3.0	1.00		-	
3 開口部対策			-		-	
3.3 照度		3.0	0.15		-	
3.4 照明制御		3.0	0.25		-	
4 空気質環境		3.8	0.25		-	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	4.0	1.00		-	
2 化学汚染物質			-		-	
3 化学汚染物質			-		-	
4 化学汚染物質			-		-	
4.2 換気		3.3	0.30		-	
1 換気量		3.0	0.33		-	
2 自然換気性能	4階総務部:0.067(1/15以上)	4.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-	
4 換気設備			-		-	
4.3 運用管理		4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.6	0.40		-	2.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30		-	
1 広さ感・景観	天井高:2.7m	4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33		-	
3 内装計画		1.0	0.33		-	
1.3 維持管理		3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	・共用廊下にコンセント、1階に廃棄物スペース設置	4.0	0.50		-	
3 衛生管理業務			-		-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31		-	3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-	
1 耐震性		3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	磁器質タイル(30年以上)	5.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯・排水でBを使用	4.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	屋外受変電設備(20年)	4.0	0.23		-	

2.3 適切な更新				-			
2.4 信頼性			3.6	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	グリーン購入法適合品	4.0	0.20			
3	電気設備	自家発電設備設置	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	光ケーブル対応	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.1	0.29			3.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31			
1	階高のゆとり	基準階階高: 3.75m	4.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	比率: 0.16	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31			
3.3 設備の更新性			2.5	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		1.0	0.22			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物の熱負荷抑制			PAL値220.78	4.5	0.30		4.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			高効率設備機器の採用	4.5	0.30		4.5
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)			ERR=26%	4.5			
集合住宅の評価			3.0				
4 効率的運用			3.5	0.20			3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制	運用管理体制が計画されている	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	・自動水栓、擬音装置付	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63			3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	集成材、再生クラッシュアラン	4.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能、再利用できるユニット部材	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68			
1	消火剤	粉末ABC10型消火器(ハロンなし)	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			高効率の設備機器を採用	3.7	0.33		3.7
2 地域環境への配慮			2.9	0.33			2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.33			
2	振動		3.0	0.33			
3	悪臭		3.0	0.33			
3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3	光害の抑制		4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン項目の過半を満足、広告物照明なし	5.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

機能的で快適なオフィス空間の確保を目指すと共にライフサイクルコスト（建物の企画設計から建設、運用、解体までにかかる総費用）低減に配慮した。また、基本構想時より環境に多大な負荷を与えないよう、将来を見据えた計画とした。

Q1 室内環境

- ・室内空気を健全に保つため、規制対象となる有害化学物質を含まない（F☆☆☆☆）建築材料を採用した。
- ・外部に面するガラスでは、熱線吸収ガラスを採用し外部からの熱の侵入抑制に努めた。

Q2 サービス性能

- ・バリアフリー新法の項目を満たすことで、施設利用者の機能性に配慮した。
- ・衛生器具はグリーン購入法適合品とし、節水型器具を採用した。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内にできる限り緑地スペースを設け、周辺環境に調和した外構計画を行った。
- ・県産資材の採用に努める計画とした。

LR1 エネルギー

- ・照明、空調機器で高効率の機器を採用することで省エネルギーに努めた。また、事務スペースの照明計画では明かりセンサー機能による自動調光を採用した。
- ・外部に面するガラスでは、熱線吸収ガラスを採用し外部からの熱の侵入を防ぎ空調負荷の抑制に努めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・リサイクル資材（再生クラッシャーラン等）を採用し、自然環境の保全に努めた。
- ・節水型の設備機器（自動水栓・擬音装置）を採用し、水資源の保護に配慮した。

LR3 敷地外環境

- ・リサイクル資材の活用などを行い、ライフサイクルCO₂（建物の建設から運用、解体までに発生する二酸化炭素の総量）排出削減に努めた。
- ・多種分別が可能なゴミ置場を計画した。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)紺屋町ビル新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		81.3
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				90.6	0.40	36.24
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数